

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立西唐津小学校																
1 前年度 評価結果の概要		・本校では、重点目標「やる気」「ほん気」「げん気」を各部・各学級で具現化し、「『人・もの・こと』に関わりをもち心豊かに育つ西唐津っ子」の育成に努めてきた。その結果、学びの質の向上、思いやりの心の育成、地域体験の充実など、多方面で成果が見られた。また、支援体制や働き方改革の推進により、児童・教職員の環境改善も進んだ。 ・次年度は、ICTを生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」をさらに深めるとともに、思いやりの心の育成、いじめ防止、支援体制の充実、地域体験の継続により、安心して学べる環境づくりを進める。あわせて働き方改革を一層推進し、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努める。																
2 学校教育目標		「学びのえがお」いっぱい 西唐津小学校 「人・もの・こと」に関わりをもち 心豊かに育つ西唐津っ子 ～にこ・きび・はき・どん～																
3 本年度の重点目標		・知…やる気→学力向上に積極的に取組む ・徳…ほん気→「人・もの・こと」への関わりの中で心を育てる ・体…げん気→安全・安心な学校づくりに取組む																
4 重点取組内容・成果指標												中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目																		
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価										
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言									
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策 ・単元のゴールとプロセスデザインの見える化 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実 ・ICTの活用場面の設定	○個別最適な学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返りで、平均3.5点以上	・定期的に校内研修会等で、学びスタイルの進捗状況を確認する。また、他の学年と進捗状況を共有し、更なる取組の促進を図る。 ・ICT推進リーダーやICT支援員と協力して、ICT利活用(特に1人1台端末活用)に係る研修会を必要に応じて複数回開催する。		・		・		・	学力向上コーディネーター 研究主任								
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童をが90%以上とする。	・縦割り活動などを通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた児童が「ほめほめカード」を書いて掲示したり、全校放送したりすることで児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。		・		・		・	特活部								
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめを見たり気付いたりしたら、止めるようにしたり、大人に伝えたりしていますか」について肯定的な回答をした児童を90%以上とする。 ○「いじめの未然防止、早期発見・対応ができるよう、組織的な指導や取り組みを行っている」について肯定的な回答をした教職員を90%以上とする。	・いじめアンケートや毎月初めの「西小よい子アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見逃し0に努め、担任、生活主任、SC、SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。 ・校内でいじめ等気になることがあった場合は、職員連絡会で全職員に伝え、情報共有する。		・		・		・	生活部								
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・地域の人・もの・ことに関わる交流を通して学ぶ体験活動を各学年実施する。 ・教育活動全体を通して、教師は児童のよいところを認め、積極的に褒める。		・		・		・		特活部							
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●「授業以外で、運動やスポーツ」に楽しんで取り組んでいますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童が80%以上	・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。また、雨天で外遊びができない際も、体育館での運動を推奨して、運動する機会を増やす。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やすとともに、健康観察記録表による健康管理に努める。		・		・		・	保体部								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・出退勤管理システムで勤務時間を意識させ、19時退勤(定時退勤日は17時40分退勤)を推進する。 ・長期休業中、会議や職員作業の日程をまとめ、年次休暇を取りやすくする。		・		・		・	管理職								
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けた校内支援体制の充実と環境の整備	○誰もが安心して学校生活を送れるように校内の基礎的環境整備を進める。 ○「支援を要する児童に対し、研修会や気になる子研修会等を踏まえ、適切な対応を取るよう」に努めている」の質問項目について肯定的な回答をした教員を90%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を行う。 ・児童についての情報交換を職員間で行い、指導や支援の方法を共有する。 ・困り感をもつ児童が学習に活用できる教材や、学習に参加できる手立てを紹介したり、共有したりする。		・		・		・	特別支援教育コーディネーター								
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																		
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価				主な担当者						
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言									
○	○	○	・		・		・		・									
○	○	○	・		・		・		・									
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育																		
5 総合評価・次年度への展望		・ ・ ・																